

山花 泰三

鹿児島大学大学院 理工学研究科 建築学専攻 修士2年

## 地域再生法を活用した廃校校舎の転用手法に関する研究

少子化等により廃校が増加している一方で、過疎地域では財政難により高齢者福祉施設の整備が遅れており廃校の有効活用が望まれているが、建物が全く利用されずそのままとなっている。廃校の転用を妨げる要因として、転用手続きでの国庫補助金の返還義務と改修工事での消防法や建築基準法への対応があげられる。このような中、過疎地域において2003年から始まった地域再生計画を活用し、廃校を転用して校舎を有効活用している事例が散見されつつある。

そこで本研究では、地域再生計画を用いた廃校転用の事例から手続き面での知見を探り、次に改修工事の段階で発生する問題に着目し、法規との関連性を明らかにする事で、今後の過疎地域における廃校転用についての知見を得る事を目的とした。調査は管理者や設計者、行政担当者へのヒアリング調査を主に行っている。

調査により様々な問題が明らかとなったが、いずれも計画の実行段階で発覚し、随時対応を取らざるを得ない状況であったため、事前に問題となる項目を想定・把握する事が重要だと言える。